



Solaris Container Manager 1.1 ご 使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-2705-10
2005年6月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryum-in-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, Sun Fire, Starfire, Sun StorEdge, Sun Enterprise, Ultra, Solstice SyMON, JDK, JumpStart, N1 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape は米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。ORACLE は Oracle Corporation の登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris Container Manager 1.1 Release Notes

Part No: 817-7553-10



050614@11223



目次

はじめに	7
1 インストール時の問題点	11
Solaris Container Manager 1.1 のインストール前に知っておく必要がある問題点	11
usermod では権限があるユーザーの /etc/user_attr ファイルが更新されない	11
Sun Web Console 2.0 ソフトウェアのインストール	12
▼ CD から Sun Web Console をインストールする	13
▼ Sun Web Console を起動する	14
▼ Sun Web Console をアンインストールする	15
インストールしたマニュアルに Solaris Container Manager 1.1 のマニュアルが含まれない	15
Container Manager のバグ	16
Solaris 10 のホストで Container Manager のエージェント更新が機能しない (6268435)	16
サーバーインストール終了時に間違ったメッセージが表示される (6251360)	16
2 実行時の問題点	17
Container Manager の問題点	17
Solaris Container Manager 1.1 の CLI が翻訳されていない	17
新規コンテナウィザードでコンテナ名の文字数が異なる	17
使用状況グラフのイメージのタイトルと見出しが英語で表示される	18
SPARC: 拡張アカウンティング機能が Solaris 8 で使用できない	18
/etc/project データベース内の一部のプロジェクトが Container Manager で検出されない	18
Container Manager のバグ	18

選択していないプロセスが新規プロジェクトに移動する (6268412)	18
アラームが発生したときにパフォーマンスが低下する (6255145)	19
エージェントが別のサーバーコンテキストに移動したときのエラーメッセージが間違っている (5034900)	19
エージェントのパフォーマンスが低下するか、応答が遅くなる (6247892)	19
サーバーの再起動後に Java Web Console が再起動しない (6252233)	20
特定のオブジェクトと期間の組み合わせの累積稼働率グラフが表示されない (6256467)	20
更新したりリソース変更ジョブが失敗する (6258383)	21
無効なロケールを選択したときにゾーンの作成に失敗する (6259233)	21
階層表示をクリックしたあとにウィザードを起動するとアプリケーションエラーが発生する (5038524)	21
ゾーン状態の変更後に操作ボタンが有効にならない (6247882)	21
ゾーンの削除時に「ゾーン」表がすぐに更新されない (6247898)	22
ゾーンが関連付けられているリソースプールを削除できる (6240756)	22
「プロジェクト」表でプロジェクトの状態が更新されない場合がある (6252494)	22
アラームバッジではなくツールチップが表示される (6219617)	23
「ゾーン - プロパティ」区画で追加属性が表示されない場合がある (6247877)	23
名前の最初の文字が英字でない場合にリソースプールの作成に失敗する (6253063)	23
ブラウザの「戻る」ボタンをクリックしたときに例外が発生する場合がある (6241424)	24
Solaris 8 OS の既存のプロジェクトがアプリケーションベースのコンテナとして検出される場合がある (5026619)	24
使用状況グラフが正しく表示されない (5020762)	24
SPARC: Solaris 8 で Container Manager のエージェントモジュールが原因でメモリーリークが発生する (4982743)	25
ユーザー nobody が所有する一部のプロセスがコンテナに移動しない (5011290)	26
ヘルプがコンテキストヘルプではない (4970176)	26
nscd を一致式として使用するとホストがハングアップする (4975191)	26
サーバー層の再インストールまたは設定の後にエージェントホストが見つからない (4964051)	27

3 マニュアルの問題点 29

『Solaris Container Manager 1.1 インストールと管理』	29
「コマンド行インストール」	29
「レポートの作成と拡張アカウントングデータの使用」	29

「コンテナの概要と製品の起動」 30

はじめに

Solaris™ Container Manager 1.1 は、リソースの割り当てと管理に使用する、Sun™ Management Center 3.5 Update 1b のアドオンソフトウェア製品です。『Solaris Container Manager 1.1 ご使用にあたって』では、Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアのリリース直前まで明らかにならなかった実行時の問題点やバグを示します。このリリースノートは、印刷版のみ提供されています。

注 - Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアは、SPARC® と x86 の両方のプラットフォームで動作します。このマニュアルで説明する情報は、章、節、注、箇条書き、図、表、例、またはコード例において特に明記しない限り、両方のプラットフォームに該当します。

対象読者

この情報は、Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアをインストールして使用するユーザーやシステム管理者を対象としています。

関連マニュアル

Solaris Container Manager 1.1 のインストールまたは使用については、『Solaris Container Manager 1.1 インストールと管理』を参照してください。アプリケーションの任意のウィンドウの右上にある「ヘルプ」ボタンをクリックしてヘルプを表示することもできます。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する、基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていません。

これらについては、以下を参照してください。

- 『Solaris Handbook for Sun Peripherals』
- Solaris ソフトウェア環境に関するオンラインマニュアル (<http://docs.sun.com> から入手可能)
- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Solaris Container Manager 1.1 に関する情報については、次の表に示したマニュアルを参照してください。

Sun のサービス	URL	説明
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF と HTML マニュアルをダウンロードする、印刷マニュアルを注文する
サポートおよび トレーニング	http://jp.sun.com/support http://jp.sun.com/training	テクニカルサポートを受ける、パッチをダウンロードする、Sun のコースについて情報を入手する

書体と記号について

このマニュアルでは、次のような書体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルのデフォルトのシステムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
C シェルプロンプト	machine_name%
C シェルのスーパーユーザープロンプト	machine_name#
Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト	\$

表 P-2 シェルプロンプトについて (続き)

シェル	プロンプト
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザープロンプト	#

第 1 章

インストール時の問題点

この章では、インストール時の問題点とバグについて説明します。

注 - Solaris Container Manager 1.1 のこのリリースでは、次のいずれかのブラウザを使用してください。

- Netscape™ 7.0 以降
 - Internet Explorer 5.0 以降
-

Solaris Container Manager 1.1 のインストール前に知っておく必要がある問題点

この節では、事前に行う作業と Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアのマニュアルについて説明します。

usermod では権限があるユーザーの /etc/user_attr ファイルが更新されない

Container Manager のインストール中に usermod コマンドによって /etc/user_attr ファイルが更新されます。Container Manager のセットアップ時に ID を入力したユーザーのプロファイルを変更しようとしたときに、次のメッセージが表示される場合があります。

```
UX: /usr/sbin/usermod: ERROR: user_name is in use. Cannot change it.
```

次のいずれかのエラーが発生した場合は、/etc/user_attr ファイルを手動で更新して正しいプロファイルを設定します。

- リソースプールを作成できない
- ゾーンを作成できない
- プロジェクト、ゾーン、またはプールを更新できない
- 有効なユーザーのコンテナを有効にできない
- コンテナをホストに関連付けることができない

Solaris 10 システムでは、`/etc/user_attr` ファイルの内容は次のようになっている必要があります。

```
username:::auths=auths;profiles=Pool Management,Zone Management,
Project Management,other_profiles;other_attributes
```

Solaris 9 システムでは、`/etc/user_attr` ファイルの内容は次のようになっている必要があります。

```
username:::auths=auths;profiles=Pool Management,Project Management,
other_profiles;other_attributes
```

Solaris 8 システムでは、`/etc/user_attr` ファイルの内容は次のようになっている必要があります。

```
username:::auths=auths;profiles=Project Management,other_profiles;other_attributes
```

必要なプロファイルがホストに存在するかどうかを確認するには、`/etc/security/prof_attr` ファイルの内容を確認します。このファイルには、オペレーティングシステム (OS) のバージョンに従って、必要なプロファイルが含まれます。

必要なプロファイルがない場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SCM/sbin/scm-poolprof-script.sh` ファイルを実行して必要なプロファイルを作成します。`/opt` は Container Manager がインストールされているディレクトリです。このスクリプトを実行するには、`JAVA_HOME` 環境変数が `/usr/j2se` に設定されているか、Java が `/usr/java` にインストールされている必要があります。

Sun Web Console 2.0 ソフトウェアのインストール

Sun Management Center 3.5 Update 1b または Solaris Container Manager 1.1 をインストールする前に Sun Web Console 2.0 ソフトウェアをインストールする必要があります。Solaris Container Manager 1.1 のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) はブラウザで表示します。この GUI を使用するには、Sun Management Center のサーバー層に Sun Web Console 2.0 ソフトウェアをインストールする必要があります。Sun Web Console 2.0 ソフトウェアは Sun Management Center 3.5 Update 1b CD 2/2 に含まれ、Solaris 8 または 9 オペレーティングシステムを使用する場合にインストールする必要があります。

Sun Management Center または Solaris Container Manager 1.1 をインストールする前に Sun Web Console 2.0 をインストールすることで、次のソフトウェアが確実にインストールされます。

- Tomcat サーバーの正しいバージョン 4.0.5
- Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™ platform) の正しいバージョン 1.4.2 以降

Tomcat サーバーの旧バージョンが現在インストールされている場合は、先にそのソフトウェアパッケージを削除する必要があります。

Sun Web Console ソフトウェアは、J2SE 1.4.2 以降のソフトウェアに依存します。J2SE ソフトウェアは Sun Web Console ソフトウェアに含まれます。J2SE の旧バージョンがある場合は、インストール時に J2SE ソフトウェアの更新を確認するメッセージが表示されます。

注 – Sun Web Console 2.0 のベータ版がすでにインストールされている場合は、先に Sun Web Console 2.0 をアンインストールする必要があります。詳細は、[15 ページ](#)の「[Sun Web Console をアンインストールする](#)」を参照してください。

▼ CD から Sun Web Console をインストールする

注 – Sun Web Console ソフトウェアは、デフォルトの場所にインストールする必要があります。

手順 1. 次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su -
```

2. **Tomcat** サーバーがすでにインストールされている場合は、次のように入力してバージョンを確認します。

```
# pkginfo -l SUNWtcatu
```

Sun Web Console ソフトウェアに含まれるバージョンは 11.9.0,REV=2002.03.02.00.35 です。

3. インストールされているバージョンが **11.8.0** 以下から始まる場合は、次のように入力して **Tomcat** サーバーを削除します。

```
# pkgrm SUNWtcatu
```

正しいバージョンは、後でインストール処理中にインストールされます。

4. **Sun Management Center 3.5 Update 1b CD 2/2** を挿入します。

5. 次のように入力して、**Sun Web Console** ソフトウェアがあるディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/image/Lockhart2.2.3/sparc
```

6. **JAVA_HOME** 環境変数を設定します。たとえば、**C** シェルで次のように入力します。

```
# setenv JAVA_HOME /usr/j2se/bin
```

7. 次のように入力してソフトウェアをインストールします。

```
# ./setup
```

- システムに J2SE バージョン 1.4.2 ソフトウェアがインストールされている場合は、インストーラによって Sun Web Console ソフトウェアが自動的にインストールされます。インストールが完了するまで待ちます。
- システムに J2SE の 1.4.2 より前のバージョンがインストールされている場合は、J2SE バージョン 1.4.2 ソフトウェアが Sun Web Console ソフトウェアと同時に自動的にインストールされます。インストールが完了するまで待ちます。

8. インストールが終了したら、次のメッセージが表示されます。

```
Installation complete.  
Server not started! No management applications registered  
これは、正しいメッセージです。
```

9. 次のように入力して、システムの再起動時に **Sun Web Console** が自動的に起動されるようにします。

```
# /usr/sbin/smcwebserver enable
```

10. 続いて **Sun Management Center 3.5 Update 1b** ソフトウェアをインストールします。

詳細については、以下を参照してください。

- 『Sun Management Center 3.5 Installation and Configuration Guide』
- 『Sun Management Center 3.5 Update 1 追補マニュアル』

▼ Sun Web Console を起動する

ソフトウェアのインストールが完了したら、Solaris Container Manager 1.1 の GUI を使用する前に Sun Web Console を起動する必要があります。

- 手順
1. ブラウザを起動します。
 2. **https:// host_machine_name:6789** にアクセスして **Sun Web Console** を表示します。
Sun Web Console のログインページが表示されます。

▼ Sun Web Console をアンインストールする

Sun Web Console ソフトウェアの旧バージョンがシステムにインストールされている場合は、バージョン 2.0 をインストールする前に旧バージョンをアンインストールする必要があります。システムから Solaris Container Manager 1.1 を削除した後に Sun Web Console ソフトウェアを削除する場合も、この手順に従います。

注 - /usr/lib/webconsole ディレクトリまたはそのサブディレクトリで setup -u を実行すると、pkgrm に失敗します。

手順 1. 次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su -
```

2. **Sun Web Console** ソフトウェアパッケージを削除するには、スーパーユーザー (**su -**) で次のように入力して削除スクリプトを実行します。

```
# /usr/lib/webconsole/setup -u
```

3. スクリプトが終了したら、**Tomcat** サーバーと **Java 1.4.2** ソフトウェアの削除を確認するメッセージが表示されます。このソフトウェアを残すには、次のプロンプトで「**n**」と入力します。

```
If you have other work that requires use of the
Tomcat Servlet/JSP Container software, you may wish to
not delete it from your machine.
```

```
Do you want to delete it? [n]? n
```

```
If you have other work that requires use of the
Java 1.4.2 software, you may wish to not delete it
from your machine.
```

```
Do you want to delete it? [n]? n
```

インストールしたマニュアルに Solaris Container Manager 1.1 のマニュアルが含まれない

Sun Management Center 3.5 Update 1b CD のイメージのマニュアルをインストールしても、Solaris Container Manager 1.1 のマニュアルは含まれていません。

英語版のマニュアルは <http://docs.sun.com/apps/doc/coll/810.6> にあります。

フランス語、繁体字中国語、簡体字中国語、日本語、または韓国語のマニュアルを手にするには、<http://docs.sun.com> にアクセスしてください。ページの左上の言語ボタンをクリックして「Solaris Container Manager 1.1」を検索します。

Container Manager のバグ

Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアのインストール時に次のバグが発生する可能性があります。

Solaris 10 のホストで Container Manager のエージェント更新が機能しない (6268435)

エージェント更新機能を使用して、Container Manager アドオンがインストールされた Solaris 10 のホストを更新できません。

この問題を解決するには、Container Manager をアンインストールし、`es-inst` コマンドまたは `es-guiinst` コマンドを使用して再インストールします。

回避策: この問題を回避するには、次のいずれかの操作を行います。

- Solaris 10 のホストでエージェント更新機能を使用しない。
- `es-makeagent` コマンドを使用する。

詳細は、『Sun Management Center 3.5 Installation and Configuration Guide』の「Creating Agent Installation and Update Images」を参照してください。

サーバーインストール終了時に間違ったメッセージが表示される (6251360)

サーバーコンポーネントのインストール時に、非大域ゾーンがすでに存在した場合、次のメッセージが表示される場合があります。

```
Booting local zone <abcd> for patch check...
## waiting for zone <abcd> to enter single user mode...
## waiting for zone <abcd> to enter single user mode...
## waiting for zone <abcd> to enter single user mode...
Restoring state for local zone <abcd>...
```

abcd は非大域ゾーンの名前です。

これらのメッセージは無視できます。

回避策: なし

第 2 章

実行時の問題点

この章では、Solaris Container Manager 1.1 (Container Manager) ソフトウェアの実行時の問題点とバグについて説明します。

Container Manager の問題点

Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアでは、次の実行時の問題点が発生する可能性があります。

Solaris Container Manager 1.1 の CLI が翻訳されていない

Solaris Container Manager 1.1 のコマンド行インタフェース (CLI) バージョンは、英語版しかありません。このバージョンは翻訳されていません。英語版であっても、インストール処理や機能は変わりません。

回避策: 英語以外のロケールでインストールを行うには、GUI のインストール (`es-guiinst`) とセットアップ (`es-guisetup`) を使用してください。

新規コンテナウィザードでコンテナ名の文字数が異なる

新規コンテナウィザードのヘルプの「名前」フィールドの説明では、最大文字数が 64 文字になっています。この文字数は間違っています。「名前」フィールドの最大文字数は、フィールドの説明とエラーメッセージが示すように 32 文字です。

使用状況グラフのイメージのタイトルと見出しが英語で表示される

英語以外のロケールを選択した場合、使用状況グラフのイメージのタイトルと見出しが英語で表示されます。これらは各言語に対応していません。

SPARC: 拡張アカウンティング機能が Solaris 8 で使用できない

Solaris 8 OS を使用しているシステムでは、Container Manager で拡張アカウンティング機能が使用不可になっています。したがって、Solaris 8 システムでは、コンテナの CSV ファイルの拡張アカウンティングデータ (Exacct) 列は null になります。

/etc/project データベース内の一部のプロジェクトが Container Manager で検出されない

エージェントホストの /etc/project データベース内のプロジェクトが、Sun Management Center のデータベース内のプロジェクトとプロジェクト ID が同じでプロジェクト名が異なる場合、プロジェクトは Container Manager で検出されません。Container Manager では、同じサーバーコンテキスト内のすべてのホスト間でプロジェクト ID が一意である必要があります。

projadd コマンドを使用してプロジェクトを作成しないでください。Container Manager だけを使用してプロジェクトを管理してください。

回避策: projadd コマンドで作成されたデフォルト以外のプロジェクトをエージェントホストの /etc/project データベースから削除し、Container Manager の新規コンテナウィザードを使用してコンテナを作成します。

Container Manager のバグ

Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアでは、次の実行時のバグが発生する可能性があります。

選択していないプロセスが新規プロジェクトに移動する (6268412)

「プロセスを移動」機能を使用してプロセスを移動するときに、選択していないプロセスも移動する場合があります。したがって、「プロセス」タブの「移動」ボタンを使用しないでください。

回避策: プロセスが間違っ移動しないようにするには、次の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを使用して、プロセスを適切なプロジェクトに移動します。

```
% newtask -c <pid>
```

アラームが発生したときにパフォーマンスが低下する (6255145)

アラームが発生したときに、パフォーマンスが低下する場合があります。この問題を解決するには、次のいずれかの操作を行います。

- Sun Management Center 3.5 Update 1b でアラームを管理する。詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 16 章「Web コンソールを使用したアラームの管理」を参照してください。
- アラーム基準を変更してアラームを解消する。詳細は、『Solaris Container Manager 1.1 インストールと管理』の第 7 章「アラームの管理」を参照してください。

エージェントが別のサーバーコンテキストに移動したときのエラーメッセージが間違っている (5034900)

現在は別のサーバーコンテキスト内にあるエージェント上のオブジェクトにアクセスすると、次のエラーメッセージが表示されます。

コンテナデータの読み出し中にエラーが発生しました。

次のいずれかの操作を行います。

- エージェントを元のサーバーコンテキストに戻します。
- 元のサーバーのトポロジからエージェントを削除します。

回避策: なし

エージェントのパフォーマンスが低下するか、応答が遅くなる (6247892)

エージェントがクラッシュし、scm-container* のファイルが /var/opt/SUNWsymon/cfg/ ディレクトリに残されています。エージェントが再起動したときに、最高のパフォーマンスではない場合があります。このような状況のときは、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

セキュリティ権限が不十分なため、操作を完了できません。

次のコマンドを入力して、エージェント上のプロセスの状態を確認できます。

```
% ps -eaf | grep esd
```

回避策: パフォーマンスを向上するには、次のコマンドを入力します。

1. スーパーユーザーになります。

```
% su -
```

2. エージェントを停止します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a
```

3. 状態ファイルを削除します。

```
# rm /var/opt/SUNWsymon/cfg/scm-container*
```

4. エージェントを再起動します。

```
#/opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a
```

サーバーの再起動後に Java Web Console が再起動しない (6252233)

サーバーの再起動後に Java Web Console が自動的に再起動しません。

Java Web Console を起動するには、次のコマンドを入力します。

1. スーパーユーザーになります。

```
% su -
```

root パスワードを入力します。

2. Java Web Console を再起動します。

```
# /usr/sbin/smcwebserver restart
```

3. 今後は Java Web Console が再起動するようにします。

```
# /usr/sbin/smcwebserver enable
```

回避策: なし

特定のオブジェクトと期間の組み合わせの累積稼働率グラフが表示されない (6256467)

「オブジェクトごとの累積稼働率」オプションを選択した場合、次のオブジェクトと期間のグラフが表示されません。

- 「プロジェクト」オブジェクトと「最新 1 週間」の期間を選択した場合

- 「すべて」のオブジェクトと「最新1か月」の期間を選択した場合

回避策: なし

更新したリソース変更ジョブが失敗する (6258383)

リソース変更ジョブが以前に正常にスケジュール設定され、実行され、完了している時、そのリソース変更ジョブを更新すると、ジョブが失敗します。

回避策: リソース変更ジョブを更新せずに、削除して新しいジョブを作成します。

無効なロケールを選択したときにゾーンの作成に失敗する (6259233)

新規ゾーンウィザードの「ロケール」ドロップダウンメニューから無効なロケールを選択すると、ゾーンの作成に失敗します。「ロケール」ドロップダウンメニューには無効なロケール値が含まれる可能性があります。

有効なロケールについては、『International Language Environments Guide』の「Supported Locales」を参照してください。

回避策: 新規ゾーンウィザードの「ロケール」ドロップダウンメニューから有効なロケールを選択します。ロケール値がわからない場合は、c (英語ロケール) を選択します。

階層表示をクリックしたあとにウィザードを起動するとアプリケーションエラーが発生する (5038524)

階層表示を使用して任意の区画に移動してからウィザードを起動すると、アプリケーションエラーが発生します。

回避策: 階層表示をクリックした直後にウィザードを起動しないようにします。

ゾーン状態の変更後に操作ボタンが有効にならない (6247882)

ゾーンを選択し、表上部の操作ボタンを1つクリックします。すると、その後、ゾーンの状態に適切な操作ボタンが有効にならない場合があります。

適切な操作ボタンを有効にするには、別の区画に移動してから「ゾーン」表に戻ります。

回避策: なし

ゾーンの削除時に「ゾーン」表がすぐに更新されない (6247898)

ゾーンを削除するときに、「ゾーン」表内の行がすぐに削除されません。「ゾーン」表のゾーンのエントリーは、ゾーンの削除が完了するまで削除されません。この処理は数分を要する場合があります。

更新した「ゾーン」表を表示するには、次の手順に従います。

- 別の区画に移動してから「ゾーン」表に戻ります。
- 表上部の操作ボタンを1つクリックします。

回避策: なし

ゾーンが関連付けられているリソースプールを削除できる (6240756)

ゾーンを含むリソースプールを削除しようとする、リソースプールは削除され、ゾーンが `pool_default` リソースプールに移動します。

回避策: なし

「プロジェクト」表でプロジェクトの状態が更新されない場合がある (6252494)

プロジェクトの状態が変わったときに、「プロジェクト」表の「状態」フィールドが正しい状態に更新されない場合があります。

正しい状態を表示するには、別の区画に移動してから「プロジェクト」表に戻ります。

注 – ブラウザの再読み込みボタンを使用して「プロジェクト」表を更新しないでください。この動作はサポートされていません。

回避策: なし

アラームバッジではなくツールチップが表示される (6219617)

アラームが発生しているときに、アラームバッジ自体ではなく、アラームバッジのツールチップが表示される場合があります。

別の区画に移動してからアラームが発生しているオブジェクトのアイコンに戻ると、アイコンのバッジが正しく表示されます。

回避策: なし

「ゾーン - プロパティ」区画で追加属性が表示されない場合がある (6247877)

「ゾーン - プロパティ」区画に移動したときに、追加属性の値が表示されない場合があります。

この場合、左側の区画のリンクを使用してゾーンに戻り、「プロパティ」タブをクリックします。

回避策: なし

名前の最初の文字が英字でない場合にリソースプールの作成に失敗する (6253063)

英字以外の文字から始まる名前のリソースプールを作成しようとすると、作成に失敗します。

エラーの後にホストが応答していない場合は、次の手順でホストを再起動する必要があります。

1. ホスト上でスーパーユーザーになります。

```
% su -
```

2. ホストを停止してから再起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a
```

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a
```

有効な文字は次のとおりです。

- 英数字 (A ~ Z, a ~ z)
- 数字 (0 ~ 9)
- ハイフン (-)
- 下線 (_)

- ピリオド (.)

回避策: リソースプール名の先頭文字は英字にします。

ブラウザの「戻る」ボタンをクリックしたときに例外が発生する場合がある (6241424)

ブラウザの「戻る」ボタンをクリックすると、Container Manager から例外がスローされる場合があります。このリリースでは、ブラウザの「戻る」ボタンはサポートされていません。

この例外から回復するには、https://server_name:6789/containers を表示し、適切なページに移動します。

回避策: なし

Solaris 8 OS の既存のプロジェクトがアプリケーションベースのコンテナとして検出される場合がある (5026619)

Container Manager がインストールされた Solaris 8 システムでは、`/etc/project` ファイル内の名前が、`user.username` の命名規則に従っていないプロジェクトが存在する場合があります。これらのプロジェクトは、アプリケーションタイプのコンテナとして検出されます。この割り当ては、コンテナのプロパティシートで確認できます。

このプロジェクトに `lnode username` とプロジェクト名 `user.username` がある場合、コンテナはユーザーベースのコンテナとして認識されます。この場合、コンテナは Container Manager で正常に機能します。

プロジェクトに `lnode` が関連付けられていない場合は、プロジェクトを無効にできません。`/etc/project` データベースのエントリが削除されます。続いてコンテナを有効にしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

コンテナを有効にしているときにエラーが発生しました。コンテナの有効化に失敗しました。

回避策: Container Manager を使用してコンテナ定義を再作成するには、次の手順に従います。

1. コンテナ定義を削除します。
2. Container Manager を使用してコンテナ定義を再作成します。

使用状況グラフが正しく表示されない (5020762)

使用状況グラフが正しく表示されない場合があります。x 軸と相対的なデータポイントがすべて y 軸上の直線として表示されます。

回避策: 使用状況グラフが表示されるフレームを再読み込みするには、次のいずれかの操作を行います。

- Netscape™ 4.79 ソフトウェア
 1. 使用状況グラフが表示されているフレームで、マウスボタン 3 を押します。
 2. ポップアップメニューから「フレームの再読み込み」を選択します。
- Netscape 6 ソフトウェア以降
 1. 使用状況グラフが表示されているフレームで、マウスボタン 3 を押します。
 2. ポップアップメニューから「このフレーム」を選択します。
 3. サブメニューから「このフレームの再読み込み」を選択します。
- Internet Explorer 5.0 ソフトウェア以降
 1. 使用状況グラフが表示されているフレームで、マウスボタン 3 を押します。
 2. このポップアップメニューから「最新の情報に更新」を選択します。

注 - ブラウザのツールバーの「再読み込み」ボタンまたは「最新の情報に更新」ボタンはクリックしないでください。「ホスト」のナビゲーションウィンドウに戻る可能性があります。

SPARC: Solaris 8 で Container Manager のエージェントモジュールが原因でメモリーリークが発生する (4982743)

Container Manager モジュールを読み込むと、モジュールによって /etc/project データベースが読み取られ、コンテナ表が更新されます。Solaris 8 OS を使用しているエージェントホストでは、libproject ライブラリの API のバグが原因でメモリーリークが発生します。

回避策: メモリーリークの問題を解決するには、次のいずれかの操作を行います。

- 問題を永続的に解決するには、次のパッチをインストールします。

```
108528-29 108987-13 108993-33 109147-28 111023-03 111111-03
111317-05 112396-02 113648-03 115827-01 116602-01
```
- 問題を一時的に修正するには、/etc/nsswitch.conf ファイルを編集し、プロジェクト行から nis を削除します。変更後のプロジェクト行は次のようになります。

```
project: files
```

ユーザー nobody が所有する一部のプロセスがコンテナに移動しない (5011290)

Solaris 9 オペレーティングシステムでは、`newtask` コマンドのバグが原因で、一部のプロセス (たとえばユーザー `nobody` で実行される Java™ アプリケーション) がコンテナに移動しません。

回避策: ユーザー `nobody` で実行されるアプリケーションを、`newtask` コマンドを使用して適切なコンテナ内で起動します。

```
# /usr/bin/newtask -p projectname command
```

`projectname` はアプリケーションを起動するプロジェクト、`command` はアプリケーションを起動するコマンドです。

詳細は、`newtask(1)` のマニュアルページを参照してください。

ヘルプがコンテキストヘルプではない (4970176)

「ヘルプ」ボタンをクリックすると、ヘルプの目次が表示されます。コンテキストヘルプは現在使用できません。

回避策: 特定のパネルのヘルプを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 各パネルでは、ページタイトルのすぐ下に説明が表示されます。この説明の後のリンクをクリックすると、このパネルの「ヘルプ」ウィンドウが表示されます。
- 目次を使用して特定のパネルのヘルプを表示します。目次内のリンクの命名規則は、ページのタイトルに基づいています。たとえば、「ホストとグループ」パネルの「ヘルプ」ウィンドウを表示するには、目次の「「ホストとグループ」について」のリンクをクリックします。

nscd を一致式として使用するとホストがハングアップする (4975191)

次のいずれかの一致式を使用してコンテナ定義を作成してから有効にすると、エージェントホストがハングアップします。

- `n`
- `ns`
- `nsc`
- `nscd`

回避策: `newtask` コマンドを使用して、適切なプロジェクト内で `nscd` プロセスを開始します。

```
# /usr/bin/newtask -p projectname command
```

projectname は、アプリケーションを起動するプロジェクト、*command* はアプリケーションを起動するコマンドです。

詳細は、`newtask(1)` のマニュアルページを参照してください。

サーバー層の再インストールまたは設定の後にエージェントホストが見つからない (4964051)

Solaris Container Manager 1.1 ソフトウェアをサーバー層に再インストールする場合は、アンインストール時にデータを残してください。同様に、サーバー層で再設定を行う場合は、データベースを再作成しないオプションを選択します。データを残さずにサーバー層で再インストールまたは再設定を行った場合、以前に検出されたエージェントホストがデータベースに含まれなくなる可能性があります。

回避策: 再インストールまたは再設定を行った後にホストが見つからない場合は、次の手順でホストで Sun Management Center エージェントを再起動します。

1. エージェントシステムにログインします。
2. スーパーユーザーになります。
`% su -`
3. 次のように入力して Sun Management Center エージェントを停止します。
`# /opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a`
4. 次のように入力して Sun Management Center エージェントを起動します。
`# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a`

第 3 章

マニュアルの問題点

この章では、既知のマニュアルの問題について説明します。

『Solaris Container Manager 1.1 インストールと管理』

この節では、『Solaris Container Manager 1.1 インストールと管理』の特定の章の訂正を示します。

「コマンド行インストール」

「Container Manager ソフトウェアのインストール」節の「Container Manager ソフトウェアは、次のときにインストールできます」の下の 2 番目の項目の情報は無視してください。

「レポートの作成と拡張アカウンティングデータの使用」

コンテナのリソース使用状況グラフレポートの説明が間違っています。正しい説明は次のとおりです。

コンテナ データは、すべての有効なコンテナの最小の CPU とメモリーキャップのリソース予約に対する割合で表されます。この割合は、リソース予約量と、実際のリソース使用量の比較です。

「コンテナの概要と製品の起動」

「プロジェクトの状態」節の「プロジェクトの無効化」の見出しの下の2番目の段落が一部間違っています。正しい説明は次のとおりです。

プロジェクトが有効であった間に収集された使用状況データは、すべてデータベースに保存されます。ただし、無効なプロジェクトの使用状況レポートを要求することはできません。